

「生きる力を育成する教育の創造」
～新学習指導要領へ向けての取り組みを通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 新学習指導要領に基づく年間計画の作成

ア、平成21年度から順次始まる新学習指導要領への移行に伴い、本校でも、思考力・判断力・表現力といった、知識を活用するために必要な力の育成に着目し、授業の中のどのような場面でそれらを仕組むかを踏まえ、各教科ごと新学習指導要領に沿った教育課程年間計画の検討・見直しをしていく。

イ、新学習指導要領について学習会を設け、現行学習指導要領との違いや改訂の主旨・ポイント等について理解を深める。

(2) 新学習指導要領を踏まえた授業実践

新学習指導要領のキーワードとも言える「思考力・判断力・表現力」を養うため、学んだ知識を活用する力や言語活動に重点を置いた授業実践を、各教科検討する。

(3) キャリア教育の実際と検証

昨年度、本校では独自のキャリア教育全体計画を作成した。今年度は全学年で年間計画の実際と検証を行う。特に2年生が文部科学省の「キャリア教育実践プロジェクト」の指定を受け、甲州市教育委員会を中心とした「キャリア・スタート・ウィーク」の実践として「職場体験学習」を計画し実践を行うので、それらを踏まえた授業実践も研究していく。

II 成果と課題

1 新学習指導要領に基づく年間計画の作成

来年度から順次始まる新学習指導要領への移行措置を踏まえて、今年度は各教科領域で教育課程の見直しと手直しを行った。まずは新学習指導要領の目指すところを学ぶために研修主事を招いての学習会を行い、漠然とした知識を正確につかむことから始めた。主な改訂のポイントとして、各教科を通じた言語活動の充実、基礎的・基本的な知識を活用して思考力・判断力・表現力等の育成をすること、理数教育の充実、道徳教育の充実等の改善事項が明確になった。中学校では21年度から移行措置が始まることを踏まえ、各教科の話し合いの時間を多く確保し、授業のどの場面で言語活

動を仕組むことが出来るのか、新出事項をどのように指導していくのか、具体的な場面を想定しながら、研究を重ねてきた。各教科ごとの学習はある程度深めることが出来たが、道徳に関しては、来年度から全面実施にもかかわらず、全体での学習時間がなかなかもてなかった。大綱が出たのが遅かったため、各教科との関連付けを検討する時間的ゆとりがなかったためである。このことは大きな課題として来年度以降の研究に加えていきたい。

2 新学習指導要領を踏まえた授業実践

今年度は1年生の理科で授業研究を行った。理科は来年度から新学習指導要領改訂に伴う移行期に入るので、それに即した、応用・発展学習の充実と表現活動を工夫した授業の展開を実践した。新しい視点での授業実践となり、このことは理科にとどまらず他の教科でも取り入れていけるものと思う。新しい教育課程を考える上で大変参考になり、得るところの多い研究となった。先進校での視察や還流報告を通して、教員自身の積極的な学びの中から改訂後にどのような実践ができるかを、今後さらに研究していくことが大切である。

3 キャリア教育の実際と検証

昨年度作成したキャリア教育全体計画を各学年で学期ごと検証した。特に今年度は教育実践の指定を受けた2年生を対象に「職場体験学習」を計画・実践した。地域・父母の協力のもと、15の事業所の中から自分の適性や興味を考えながら、体験したい職場を選び、体験学習の受け入れのお願いから、打合せ・体験・事後訪問までを自分たちで対応する取り組みを行い、自主性や自立意識を高めることをねらった。また事前学習の一環として産業技術短期大学より講師を招聘して「マナー講習会」を行い、社会人として大切なことを学んだ。事後には体験したことをもとに新聞を作り発表会を行った。秋には地元農家の方の協力を得る中で、地域の産業でもある「ころ柿作り体験」を行った。一日農家宅を訪れ、皮むきを手伝い、中には畑まで出向いて柿もぎの作業を手伝った生徒もいた。

これらの体験を通してキャリア教育の目標でもある、将来の生き方を見つめ進路に関する問題に積極的に取り組む姿勢が育ってきたこと、さらに地域との連携を生かした学校教育の推進を図れたことが、大きな成果といえよう。キャリア教育は全学年・全領域で行う教育なので、職場体験だけにとどまらず、これからも幅広い場面で継続的、系統的に指導していくことが必要になってくる。

Ⅲ 成果物

- 1 新学習指導要領に基づく年間計画
- 2 2年学活指導案・1年理科指導案

(研究主任 厚芝 瑞穂)